

2023年4月14日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 石田 健一

セネガル国ンダヤン多機能港開発マスタープラン策定プロジェクト
(開発計画調査型技術協力)
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2023年3月3日(金) 13:58～16:59
- ・ 場所：オンラインおよび JICA 本部（2階 229 会議室）
- ・ ワーキンググループ委員：東委員、石田委員、鋤柄委員、谷本委員
- ・ 議題：セネガル国ンダヤン多機能港開発マスタープラン策定プロジェクト（開発計画調査型技術協力）に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・ 配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】セネガル国ンダヤン多機能港開発マスタープラン策定プロジェクト（開発計画調査型技術協力）SC 案
 - 2) 回答表
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月）

全体会合（第147回委員会）

- ・ 日時：2023年4月14日(金) 14:00～15:44
- ・ 場所：オンラインおよび JICA 本部（2階 229 会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. Dubai Ports World（以下、DP World）による航路浚渫及び供用時の維持浚渫における土砂の処理方法に関し、陸上での処理あるいは海上投棄のいずれの場合においても、生態系への負の影響が懸念されるため、緩和策とその想定される効果を DFR に記載すること。
2. セネガル国の物流・貨物取り扱いと港湾機能の強化に関する既存のマスタープラン、ダカール圏を含む地域開発計画、セネガル振興計画、ダカールを中心とした南北の海岸に沿った重要な生息地の指定箇所と既存の自然保護の計画を整理したうえで、多機能港をンダヤンに建設する必要性と妥当性について DFR に記載すること。

代替案検討

3. セネガル国の基本的な統計データの不足を補い定量的な比較検討を行うため、既存のダカール港とンダヤン港の取扱能力の比較表を作成し、DFR に記載すること。

環境配慮

4. 事業対象地域には保護対象の鳥類と複数の種のウミガメが生息し、特にウミガメは海岸で産卵している可能性がある。そのため、マスタープランの策定に当たっては、これらの種への攪乱を避けるために、整備する機能の立地、種類、規模、配置等を十分に考慮し、緩和策を含め検討した結果を DFR に記載すること。
5. 沖合から沿岸ならびに隣接する後背地まで含め、生物多様性並びに生態系サービスについて調査を行い、事業による影響と明らかにした結果を DFR に記載すること。

社会配慮

6. 当該地域では零細的な漁業が主体であり、沿岸地域の環境汚染が深刻である上、地域漁業は当該事業に起因する影響を受けることが予想され、その影響は多方面に連鎖的に及ぶことが考えられる。それらの点を念頭に置いて調査を行い、その結果を DFR に記載すること。

ステークホルダー協議・情報公開

7. セネガルの法制度に基づき住民協議を実施した先行の DP World による開発において、既に着手している工事が住民の反対で停止している事態、RAP が未作成、さらに土地収用は未了という情報があることに鑑み、上の住民協議の詳細を把握し、また同じく先行して進められているバルニ・センドゥ港工事に係る住民協議の内容把握に努め、本事業では十分に住民の意見を反映できるよう、住民協議の準備、開催を支援し、議事録を含めてその結果を DFR に記載すること。

以上